

家庭用品修理例：キッチンタイマーの表示がおかしい

キッチンタイマーは、料理のゆで時間等を決める際にとっても便利に使うことができます。

以下は、表示がおかしくなったキッチンタイマーの修理過程です。

キッチンタイマーは、単純（シンプル）な構成（構造）ですので、他のキッチンタイマーの修理も同様に行えるかと思えます。



表示が変です。

（TANITA ぴよぴよタイマー100分計（ひよこ）5365）

[▶ Information](#)

数字の0（ゼロ）がL（エル）のようにになっています。

また、ピヨピヨという音も、ヒーヒーと小さくなっています。



電池が消耗したのだろうと、換え（交換し）ても直りません。

よく見ると、電池（LR44）の液漏れで腐食した形跡があります。

おそらく内部に液体（電解液）が侵入（浸透）したものと思われる。



キッチンタイマーは安くなっているのですが、買い換えれば良いのですが。

原因がわかっているのです、直せそうです。

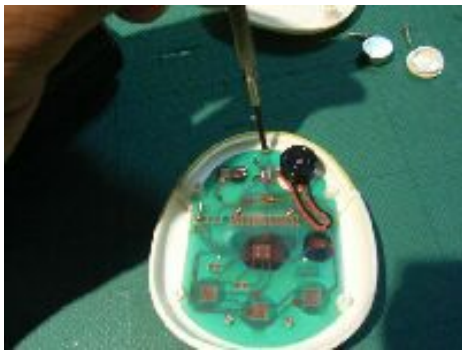
家族に「すごいね」と言ってもらえるチャンスです。

さっそく分解です。



ネジを4本外せば、裏蓋（うらぶた）が取れます。

スピーカ（発音体）にはリード（引き出し）線があるので、切らないように気をつけます。



見たところ大きな腐食は無いので、内部の基板（緑色の板）をさらに外します。



小さな液晶表示（窓）の部品が見えてきました。

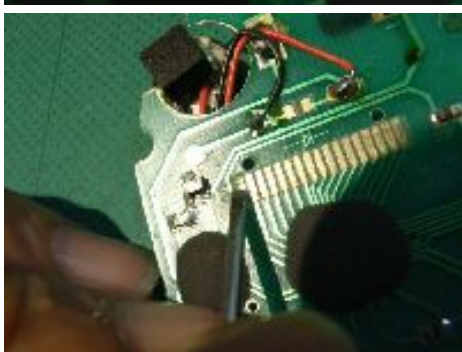


この液晶表示部(ディスプレイ)を取る（乗っているだけ）と、電極が見えてきました。



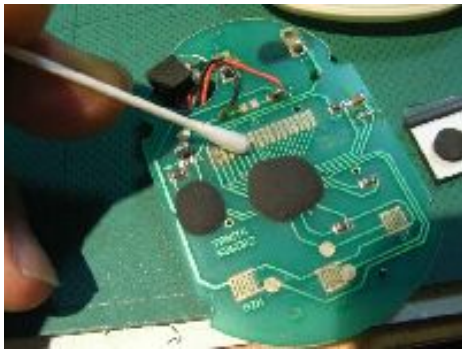
この電極の一番左の部分に腐食がありました。

表面は金メッキ（きんめっき）されていて、腐食には強いのですが、周りから銅の部分を腐食させ、緑青（ろくしょう）が発生しています。



緑青部分をドライバーの先で削り取ります。

無理な力を加えると、電極ごと壊れて（取れて）しまうので、軽く行います。



仕上げには、アルコールを染（し）みこませた綿棒を使って拭き取ります。
（綿を残さないよう、最後に粘着テープを当てて埃（ほこり）を取り去ります。）



基板の反対側の電極（ゼブラゴム、カーボンゴム様整列電極）もアルコールで清掃します。



十分に清掃したら、分解の逆の過程で組上げます。



組み上げたキッチンタイマーは、表示が鮮明になったと同時に、作動音がうるさいくらいになりました。

長らく電池を交換しなかったため、弱い音のまま使用していたことが電池の液漏れの原因と言えます。

音が小さくなってきたら、電池を交換しましょう。

2009.09.17

メール

All Rights Reserved, Copyright c Yazawa Kiyoshi 200 9

閉じる